

研究テーマ 回復期リハビリテーション病棟看護職のワーク・モチベーションに
多職種連携教育がもたらす効果

病院名 医療法人社団健育会 竹川病院

研究者 ○白髪宇絵(看護師) 柳下亜弥(看護師) 上塩入澄香(看護師)
大嶋雅子(看護師)

概要

【研究背景】

A病院において回復期リハビリテーション(以下、回リハ)病棟看護職のワーク・モチベーションについて調査した結果、ワーク・モチベーション測定尺度の1因子「チーム協調への関心」は独自のアンケートの「セラピストから移乗や経口摂取方法など日常生活援助に必要な技術を積極的に学んでいる」と高い相関があった。黒河内¹⁾によると、リハ看護の専門性を提供できるための教育体制の整備の必要性が挙げられている。そこで、看護職が多職種連携チームの中で専門性発揮を目的とした教育を行うことでやりがいに繋がる可能性があると考えた。

【研究目的】

専門職同士の学習機会を作ることで回復期における看護の専門性を見出すことに繋がり、ワーク・モチベーションが向上するかを調査・考察する。

【研究方法】

研究対象:A病院回リハ病棟の看護職 研究期間:2021年5月17日～8月10日 介入方法:質問紙調査・勉強会 測定用具:ワーク・モチベーション測定尺度²⁾

【倫理的配慮】

A病院倫理委員会で承認を受け研究協力は自由意志であること、アンケート結果は本研究以外には使用しないこと、使用後は破棄することを説明し、提出をもって同意とした。

【結果】

調査人数は介入前45名、介入後37名。質問紙の回収率は100%、有効回答率は介入前93.9%、介入後97.8%であった。介入前後のワーク・モチベーションをマン・ホイットニ検定した結果、有意差はなかった。しかし、「看護師として業績を残すこと」はP値0.067であり、傾向があるという結果であった。

【考察】

有意差がなかった理由は、参加者と研究者の学習のニーズに相違があり、看護の専門性が具体的でなく教育の意図が伝わり難かったこと、勉強会が1回であったことである。藤村³⁾は専門性機能の向上は遅延性が存在していると述べており、今回勉強会后1～2週間でアンケート調査を実施した為、勉強会の内容を実感する間がなかったと考える。しかし、看護師としての業績を残せていないことから専門性を示さなければならないという気付きに繋がった。今後は教育体制の整備として、回リハ病棟の役割についての基礎的な教育を行うことが最優先と考える。

【結論】

回リハ病棟看護職の役割についての基礎的な教育を行ってから専門的領域を選択的かつ継続的に学習できる教育体制を整備することが必要である。

【引用参考文献】

- 1) 黒河内仙奈. 回リハ病棟に勤務する看護師の職務満足度を高める看護管理実践の検討. 2019
- 2) 西村夏代. 出井涼介ら. 看護師のワーク・モチベーション測定尺度の開発. 社会医学研究, 第34;2号, 2017
- 3) 藤村和宏. 便益の享受と遅延性を考慮した専門職労働者のワーク・モチベーション・モデルの構築-サービス付き高齢者向け住宅の介護職員をケースとして-. 香川大学経済論叢. 2019;第91巻, 3. 4号